鈴木 みどり 議員
政風会

SOS緊急時サポートカードは利用者の意見・要望を取り入れて作成を

問

聴覚障がい者の一番のハンディは、情報が入らないことである。外見は全く健常者と変わりないので、なかなか気づけない。聴覚障がい者にどのように身の危険を知らせるのか、また障がいを持った人がどうしたら安心して暮らしていけるのかは大きな課題である。

そうした中、本市でもSOS緊急時サポートカード【例】がつくられた。

【例】東日本大震災以降、緊急時において災害から身を守るために重要なポイントとして、正確な情報の伝達が挙げられた。情報の伝達は、音声による部分がその多くを占めており、聴覚障がい者は、情報の入手や理解が非常に困難であった。本市では、緊急時における聴覚障がい者の避難対策の一つとしてこのカードを作成した。

(1) SOS緊急時サポートカードは何人に配られたか。

(2) カードの所有者に感想を聞いたところ、使い方が分からないという理由で使われていなかった。

市は、このカードを作成後、利用者に意見、感想を聞いたことはあるか。

(3) カードは1回使ったら再利用できない使い切りのものか。

(4) このカードは、利用者の意見が入っていないと思われるが、市として、聴覚障がい者に限らず障がい者と市の担当者で話し合う機会はあるのか。

(5) 障がい者に対して、市の防災面に配慮した考えはあるか。

利用者の声を聴き使いやすくしていく

答 民生部長

(1) 25年12月5日に、市内在住の聴覚障がい者、音声・言語機能障がい者、89名に郵送した。それ以降、新たな障がい者には、身体障害者手帳の交付時に窓口で配布している。

現在は94名に配布している。

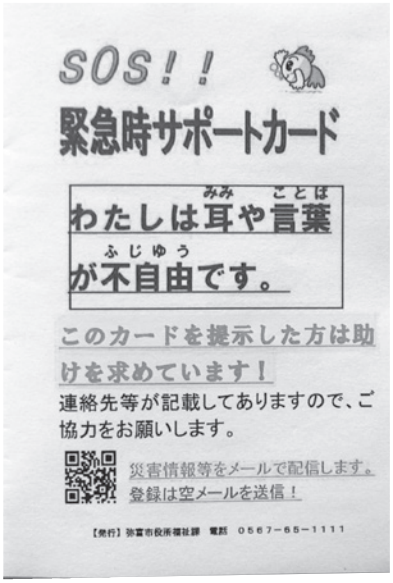
(2) カードの感想を聞いたことはない。また、使い勝手等の意見をいただいたこともない。

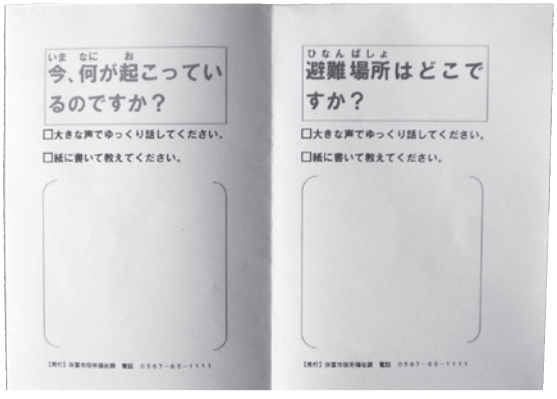
(3) カードは緊急時を念頭に置いているので、日常で何回も使うといったものではないと考えている。

(4) 聴覚障がい者や、視覚障がい者も含めて、市の担当者を交えて話し合う機会を設けている。福祉課では毎年、市長と障がい者の父母の会との意見交換を行っている。また、3年ごとに策定する弥富市障がい者計画の策定時期に合わせて、障がい者団体に市の障がい福祉施策について要望をお聞きする機会を設けている。

今年度は策定の年度なので、現在実施しているアンケート結果をもとに、関係団体にも意見を伺いたいと考えている。色々な意見を伺って、カード自体も使いやすいものにしていきたい。

(5) これから具体的な対応策を検討していく。





▲SOS緊急時サポートカード▶